



長野県伊那市

~最新技術も活用した移住・定住支援~

1. 伊那市の概要



人口... 約66,174人 人口密度 99.7人 / km²
(0~14歳12.3%、15~64歳 55.1%、65歳以上 32.6%)
面積... 667.93km² (県3番目、東京23区以上の広さ)
気候... 平均気温 11.8度 (最高 34.7度 最低-9.4度)
産業... 自然をいかした農林業 (第一次産業)、
高い技術を持つものづくり産業が集積した
製造業 (第二次産業)、
サービス業・医療 (第三次産業) など多種多様。

■首都圏からのアクセス

高速バス：東京3.5時間、名古屋3時間、大阪5時間
自動車：東京3時間、名古屋2時間、大阪4.5時間

程よい距離感。



1. 伊那市の概要

2つのアルプスに囲まれたまち

中央・南アルプスに守られ、
台風などの自然災害が少ない

晴天率 64%

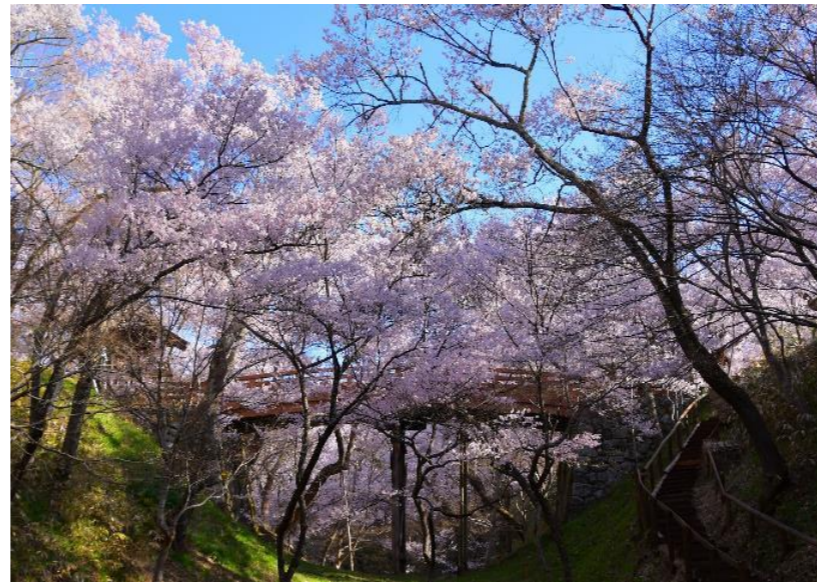
降水量 1402mm / 年

降雪日 8日 / 年

冬は寒いが晴天率が高い。
長野県内では雪が少ない。

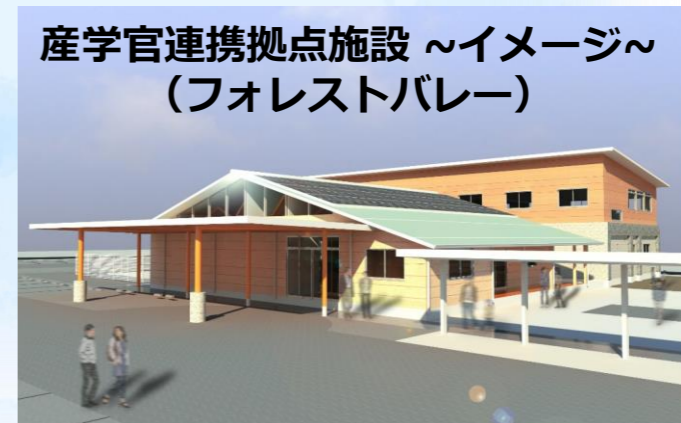
標高差590～3052m

四季がはっきり、景色も鮮やか
大自然をいかしたアクティビティや
遊びが楽しめる



地域ポテンシャル

低い自然災害リスクと水・食料・エネルギー循環による強靱な都市整備



官民協働のコンソーシアム

伊那市新産業技術推進協議会 ～ 大学 × 企業・団体 × 行政 ～

[H28.5.11 設置]

経済産業省 地方版 IoT推進ラボ [H28.7.31 選定]

総務省 地域 IoT官民ネット [H29.7.11 加盟]

内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省

スマートシティ官民連携プラットフォーム [R1.9.8 登録]

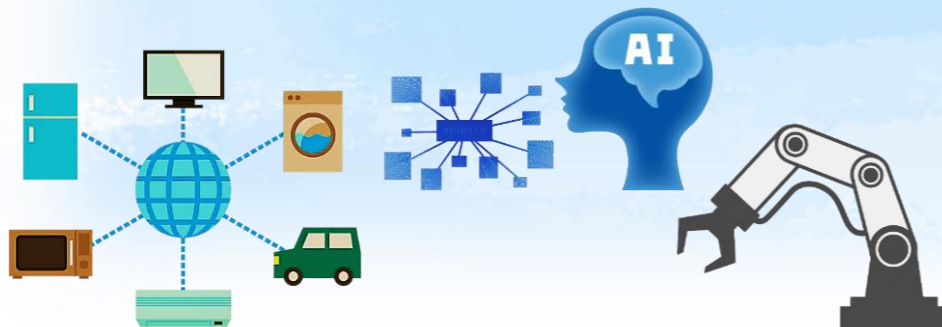
H28～ ソリューション構築フェーズ 【開発ベース】
H30～ プラットフォーム確立フェーズ 【実証ベース】
R02～ サービスモデル展開フェーズ 【運用ベース】
R04～ ユーザビリティ向上フェーズ 【推進ベース】

アウトプット (フロー)
課題解決の仕組づくり
サービスモデルの構築



アウトカム (ストック)
地域活力の維持・創造
産業活性化と起業促進

IoT × (BD+AI) × RT
= 地域ソリューション + 産業イノベーション



メンバー構成



- ・ 知見提供
- ・ 課題分析
- ・ 評価検証



[会長]

伊那市政策委員(元コマツ Hensley Industries inc. COO)

[シンクタンク]

三菱総合研究所、三井住友海上火災保険
長野県産業振興機構、日建設計総合研究所

[学術機関]

信州大学、名古屋大学、東京海洋大学、産業技術総合研究所
長野県南信工科短期大学校、産業戦略研究所

[企業]

トヨタ車体、沖電気工業、ソフトバンク、川崎重工業、JTB
KOA、タカノ、モネ・テクノロジーズ、KDDI、ゼンリン
丸紅伊那みらいでんき、NTT東日本、JR東日本
富士通ジャパン

[関係機関]

伊那商工会議所、上伊那木材協同組合、長野県経営者協会
八十二銀行、伊那中央病院

[アドバイザー]

天竜川上流河川事務所、飯田国道事務所、南信森林管理署
上伊那地域振興局、情報処理推進機構、信越総合通信局
教育情報化推進機構

政策ドメイン

【スマート農業】（自走化）



農業用機械の自動運行や肥料・農薬等の自動散布、データ活用型の営農管理等の技術確立

【コネクテッド保健福祉】



テクノロジーを活用した地域住民のウェルフェア及びウェルビーイングの実現

【スマート林業】（自走化）



森林の材積調査等の作業労力軽減と高性能機械導入等による林業経営の効率化・高度化

【アドバンスト物流】



ドローンを活用した新たな荷物配送システムの構築と持続可能な買物支援の仕組づくり

【スマート工業】



製造工程等のオートメーション化や構成機器のコネクテッド化による業務効率と品質管理の向上

【インテリジェント交通】



ITS（高度道路交通システム）活用を通じた交通の最適化及び自動配車サービスによる移動の利便性確保

【ICT教育】（自走化）



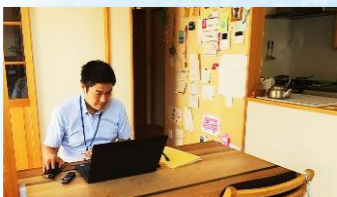
教育の情報化による自立的な学びを学校・家庭・地域の中でシームレスに提供できる環境の整備

【アメニティ定住】（自走化）



シェアリングエコノミーの構築等による時間や場所を問わないサービスの提供と移住ニーズへの対応

【デジタル行政】



行政手続きのワンストップ化や、ワンズオンリーの実現を通じた住民サービスの高度化と利便性向上

【サステイナブル環境】



再生可能エネルギーや地域マイクログリッド等による環境負荷の低減と二酸化炭素の排出抑制

スーパーエコポリスの実現

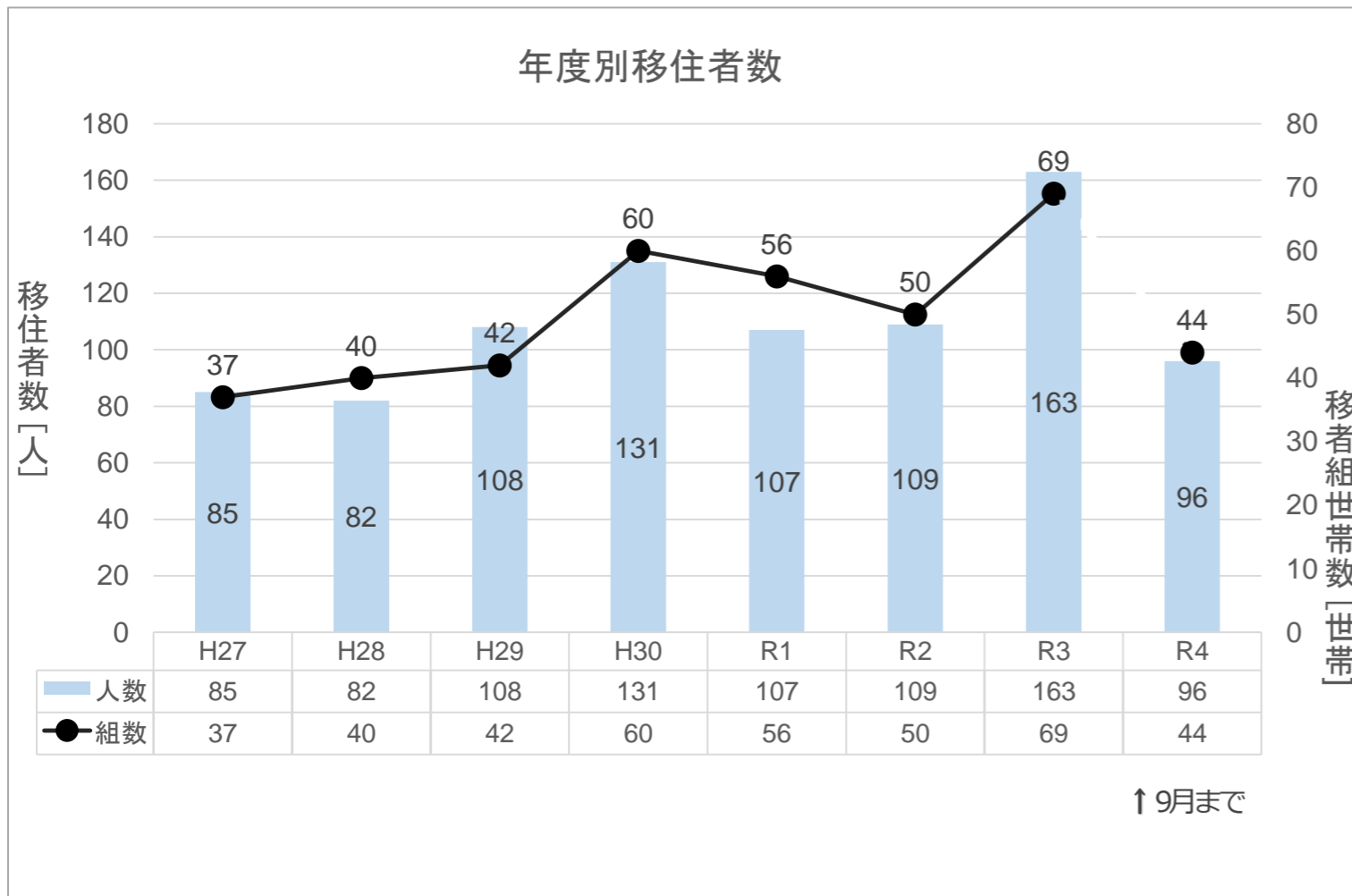
~ ecology (環境) + economy (経済) × polis (都市) ~

伊那市版 Society5.0
パースペクティブ

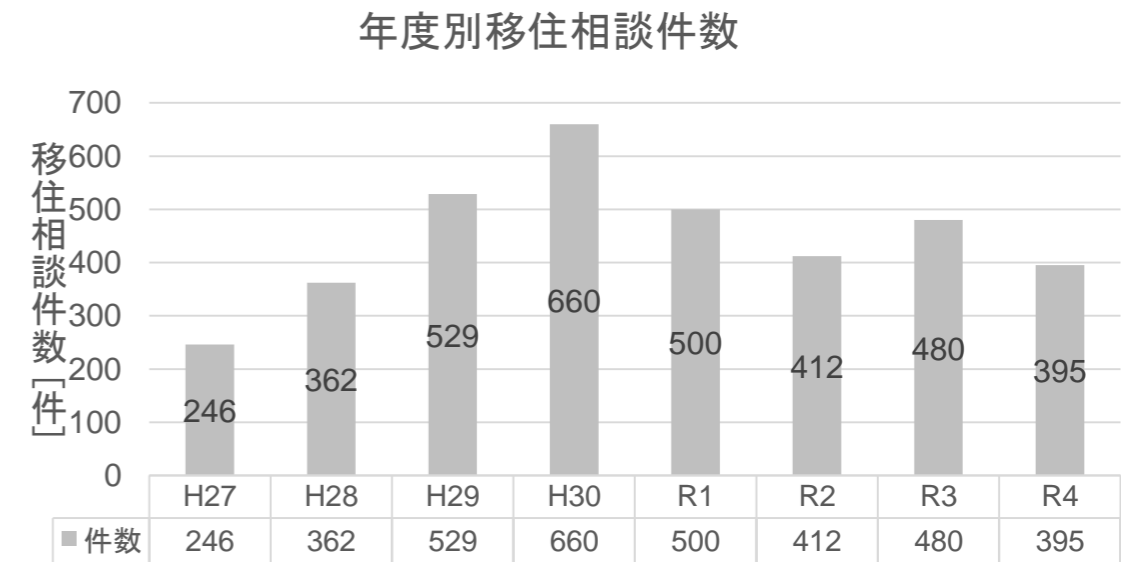
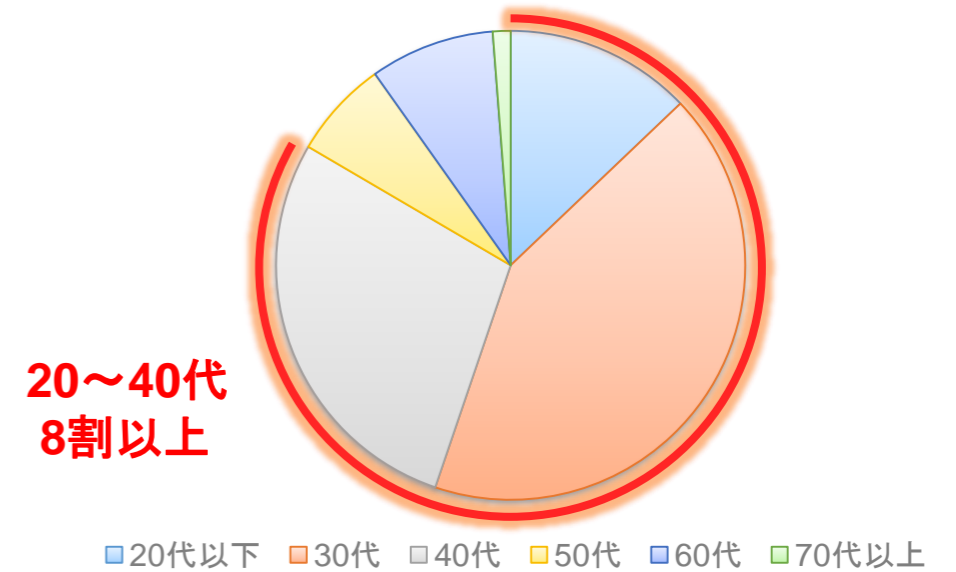


2. 伊那市の移住定住施策等の紹介

■年度別移住者数、移住相談件数、年代別数 (R4年度は4~9月の上半期集計)



令和3年度 年代別移住者数



2. 伊那市の移住定住施策等の紹介

日本を支えるモデル地域を目指して ~未来を織りなす創造と循環のまち 伊那市~

■移住のサポート



■定住のサポート



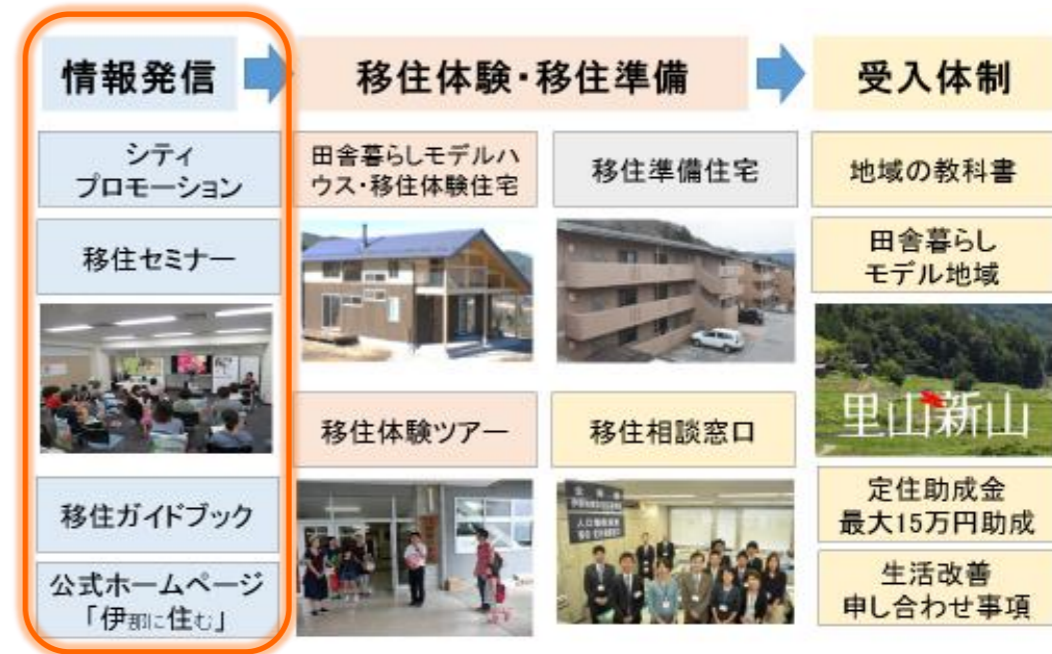
2. 伊那市の移住定住施策等の紹介

日本を支えるモデル地域を目指して ~未来を織りなす創造と循環のまち 伊那市~

■ 情報発信・シティプロモーション

- ・ 移住希望者のニーズにあわせて、移住セミナーや体験ツアーをリアルとオンラインで企画。庁内他部署や民間団体、地域の方と連携して開催
R2：36回 1635人 / R3：45回 1005人
- ・ 特徴的な子育て・教育、農林業への関心が高い
- ・ 移住・関係人口促進のマッチングサービス

「SMOUT」移住アワード
2年連続 第2位
今年度 上半期 1位



3. ICTを活用した移住定住の取り組み

e-コミュニティ構築プロジェクト（スキーム）～ 地方創生アルカディア構想 for CivicTech ～

子育て世代をターゲットとしたICTによるアメニティ定住プロジェクト。XR活用による戦略的シティプロモーション

ICTによる地域まるごとチーム化

- ニーズ（支援要望）とシーズ（提供意思）のマッチングを通じた地域互助の促進
- 環境保護と社会貢献に対する企業や住民レベルでの活動の見える化

ビッグデータによる暮らしの見える化

- 時間や場所を問わないワンストップによる移住相談体系の構築
- 統計データ等のエビデンスに基づくライフスタイルの提案



3. ICTを活用した移住定住の取り組み

■新たなプロモーションツールの創出

子育て世代をターゲットにICTを活用して、移住定住や伊那市に関する情報等にいつでもどこでも手軽にアクセスできるプラットフォームの構築

■導入の背景

- ・ 24時間365日稼働が可能な相談窓口
- ・ コロナ禍における生活様式の大きな変化や情報収集の在り方などの変化にあわせた対応
- ・ リアルとオンラインを併用した移住定住施策の展開
- ・ 移住希望者等からの問い合わせの増加
- ・ 相談内容の多様化や複雑な個別化した相談等への対応
 - ➡ テクノロジーはあくまでもツール
 - 最後は職員が移住希望者一人ひとりに寄り添う
- ・ 働き方改革、行政サービスの向上

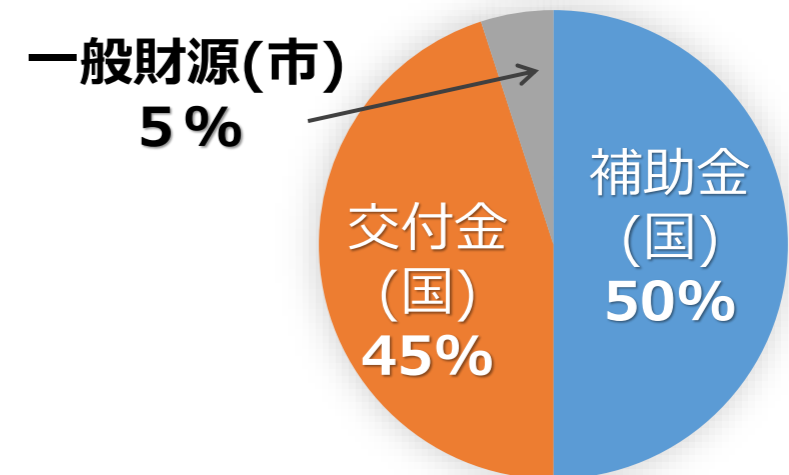
■財源は財政上有利な地方創生推進交付金を活用

全体事業費のうち、実質的な市の負担は5%

伊那市公式LINE「長野県伊那市」



財源の割合

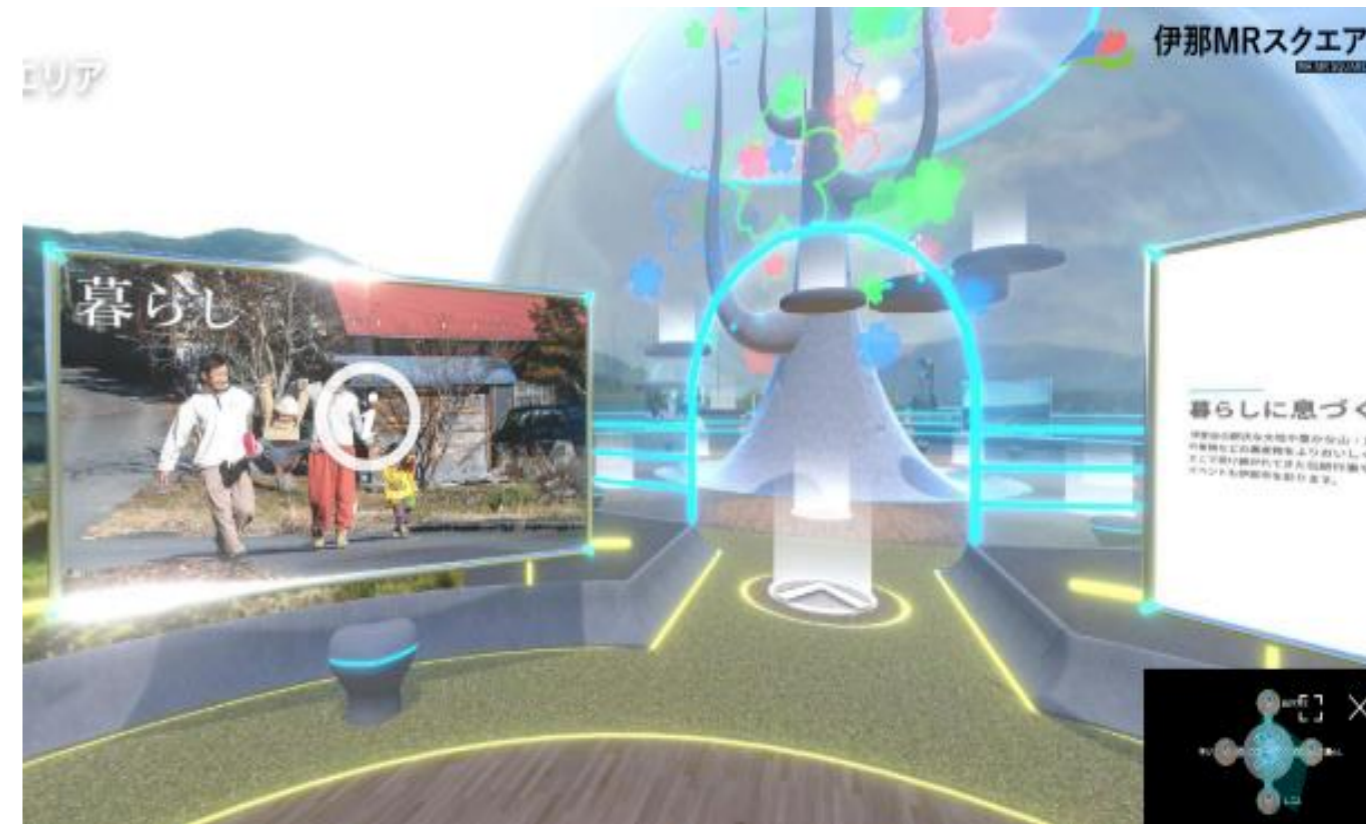
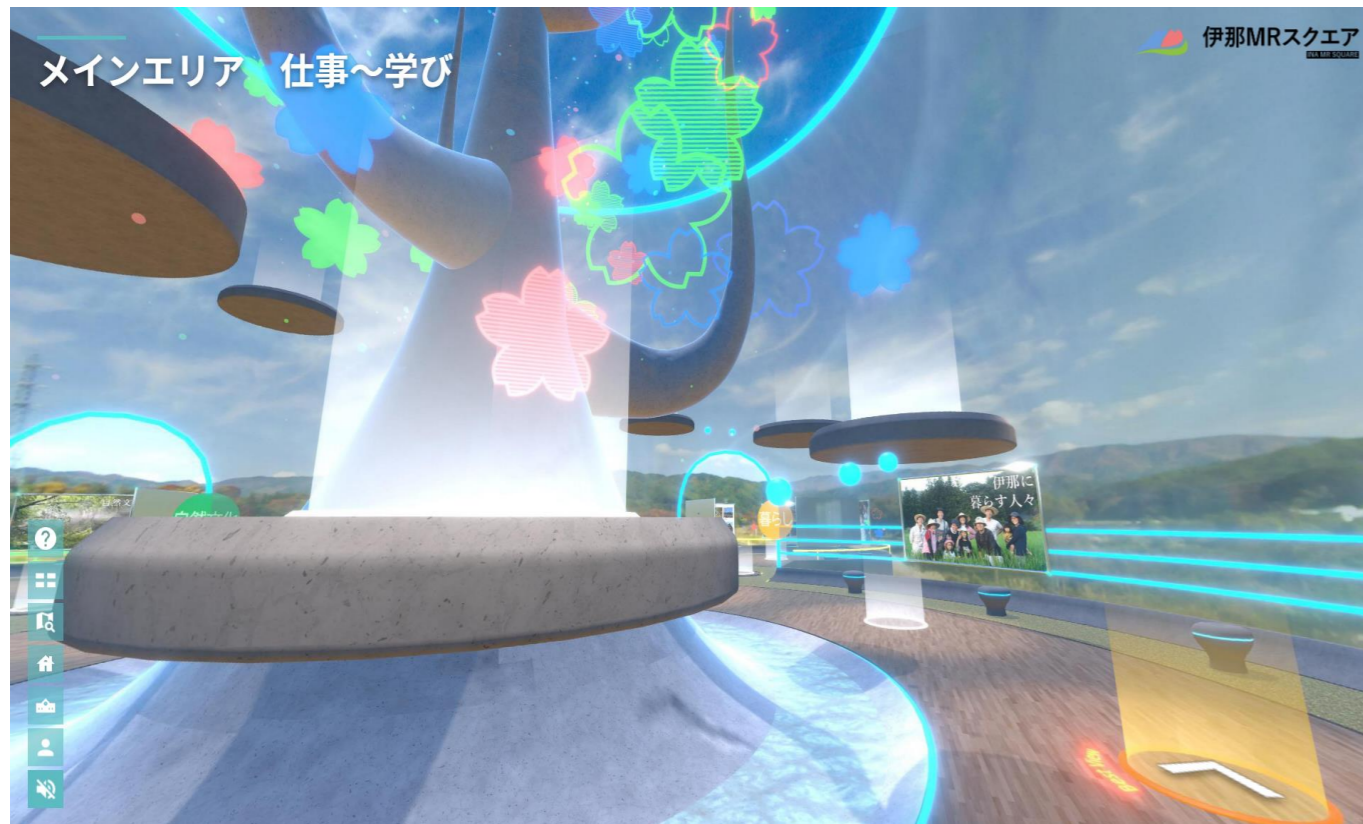


3. ICTを活用した移住定住の取り組み ～伊那MRスクエア～

■伊那MRスクエアとは

VRやAR、MRなどの技術を活用しリアルとバーチャルを組み合わせたWEB上の体験型サービス。移住定住施策とテクノロジーを活かしたコンテンツを紐づけた仮想空間。

自ら空間内を動いて情報に触れて取得することで、楽しみながら記憶に残りやすい体験となり、新たな体験価値を届けるとともに関係人口や移住定住人口の増加を図ることを目指す。



3. ICTを活用した移住定住の取り組み ~伊那MRスクエア~

■伊那MRスクエアの特徴

- ・メインエリアは、移住定住に直結する内容。
- ・サブエリアは、移住希望者が関心の高い 4 つのテーマに情報を集約。
 - ➔ 「暮らし」「学び」「自然文化」「しごと」に市保有の既存映像や写真素材など



3. ICTを活用した移住定住の取り組み ～伊那MRスクエア～

■伊那MRスクエアの特徴

- ・「学び」のエリアでは、伊那らしい子育て・教育を詳しく紹介。
- ・“信州やまほいく”や 生きる力を育む「がるがるっ子」などの情報を集約。
- ・全国的に注目される「伊那小学校」は、360度映像で現地に行った感覚で楽しめる。
- ・学校等の協力により総合学習を中心にしたリアルな学校生活の様子を写真や動画で紹介。



生きる力、ワクワクを育てる！

子どもの「おもしろがる」「試してみたがる」「不思議がる」意欲や感性など、ワクワク、ドキドキを大切に育みます。



ワクワクを育てる「がるがるっこ」

自然の中で季節の変化を感じながら、たくさんの子どもの将来にステキな種をまいてくれます。



「がるがるっこ」動画編



信州やまほいく



自然あふれる伊那市で子育て

3. ICTを活用した移住定住の取り組み ～伊那MRスクエア～

■伊那MRスクエアの特徴

- ・「学び」のエリアでは、伊那らしい子育て・教育を詳しく紹介。
- ・“信州やまほいく”や 生きる力を育む「がるがるっ子」などの情報を集約。
- ・全国的に注目される「伊那小学校」は、360度映像で現地に行った感覚で楽しめる。
- ・学校等の協力により総合学習を中心にしたリアルな学校生活の様子を写真や動画で紹介。



4. 導入による効果、課題、今後の展開など

■導入による効果

- ・ 移住希望者の初期質問に対する案内に効果的。（従来は1つずつHPリンクを紹介）
 - ➡ 職員の業務量削減 / コアな個別対応に注力できる。
- ・ コロナ禍で学校見学不可な方にバーチャルツアーとして案内。学校職員の対応時間削減。
- ・ 企業や他部署との連携により、関係者が移住定住に関心を持つ。
- ・ データ取得（利用地域、滞在時間、利用コンテンツ等）により、今後の取り組みに行かせる
- ・ データを活用し、よりニーズにあったフレキシブルな移住定住施策の検討ができる

■課題

- ・ デバイスや通信環境により快適な利用が困難という問い合わせも一部ある。
 - ➡ ハイスペックな状況でなくても、だれでも利用しやすい環境やシステムの仕様等を検討。
- ・ 最新の情報提供、データのさらなる活用

■今後の展開など

- ・ メタバース事業への移行。
- ・ ICTやシステムはあくまでもツール。でも、最大限いかせる魅力的なシティプロモーション。
- ・ ICTを活用すべき所、職員など人が行うべき所、人が最後にどのようなに関わるか等の整理。
- ・ データの利活用やDX推進、他事業との連携・展開など

以下、資料

○伊那市SDGs未来都市計画 循環型社会
○2020年カーボンニュートラル宣言～伊那から減らそうCO2～
 ・薪ストーブ等設置事業 最大10万円、太陽熱利用促進 最大5万円
○50年の森林ビジョン
○新産業技術 ぐるっとタクシー ゆうあいマーケット モバイルクリニック

○子どもの医療 子育て・学びの支援
 ・高校生までの医療費無料（8月から）
 ・病児・病後児保育
○出産祝い金
 ・第3子2万円、第4子以降5万円
 ・ブックスタート、ウッドスタート
○ママヘルプサービス・ファミリーサポート
 ・ヘルパーや協力会員が家事や育児を手伝い
○子育て支援センター
 ・就学前のお子さんを対象に親子で遊べる場を提供（市内5か所）
○自然の中の保育
 ・信州やまほいく
○学びの機会
 ・総合学習、小規模特認校
 ・キャリア教育
○食育

○就農・就林支援 仕事の支援
 ・短期農業研修受入や農業インターン事業
 ・「INASTA(イナスタ)」コンパクト農ライフ塾 長谷さんさん協議会
 ・フォレストカレッジ
○就業支援・体験
 ・伊那商工会議所、広域連合と連携した就業情報提供や就活イベントの開催
 ・ふるさとワーキングホリデーによる就業体験や交流機会の創出
○起業支援
 ・クリエイティブ産業等の誘致 サテライトオフィス（レンタルオフィス）
 ・空き店舗活用（改修費 1/3以内 最大80万円・家賃1/2以内 最大45万円 片づけ 最大15万円）
 ・創業スクールやセミナー開催支援
○UIターン促進
 ・奨学金返還支援 12万円/年・5年間（最大60万円）
 ・就業、創業移住支援補助金
 2人以上世帯100万円（独身世帯60万円）+200万円（※長野県創業支援）
○テレワーク（ニ地域居住）
 ・シェアデスク（allla）、サテライトオフィス、モバイルオフィス(IVMO)

○地域おこし協力隊の配置 地域活性化
 ・18名の隊員が各ミッションで活動中

○オンオフ ハイブリッドによる移住定住相談窓口 移住定住促進
 ・移住定住相談員の配置によるワンストップ相談体制
○移住セミナー・体験ツアー
 ・都市圏での移住セミナーと市内での体験ツアーの開催
○シティプロモーション
 ・自然景観や独自の教育風土・子育て環境などのポテンシャルとデジタル技術を融合したローカルブランディング
○ICT活用（e-コミュニティ）
 ・いつでも移住相談・ライフデザイン提案 シェアエコ・エコ活動

○田舎暮らしモデル地域 地域支援
 ・活動交付金 50万円 / 年10年間
 ・新山地域 平成27年4月1日～令和7年3月31日
 ・長谷溝口区 平成28年4月1日～令和8年3月31日
 ・伊那西地区 令和3年7月1日～令和13年6月30日
○補助金（過疎地域・田舎暮らしモデル地域）
 ・住宅新築等補助金 事業費の2/10以内（最大150万円）
 ・空き家取得等補助金 事業費の2/10以内（最大150万円）
 ・定住助成金 1世帯5～15万円+子どもの数×2万円を加算
 ・通勤助成 片道10キロ以上 5千円/月
 ・出生祝い金 第1子3万～第2子5万～第3子7万～第4子10万円

○田舎暮らし体験施設 住まいの支援
 ・田舎暮らしモデルハウス1棟（新山）最長3泊4日 4千円/泊
 ・移住体験施設 4棟（山寺：2棟）最長30日 25千円/回
 （高遠：2棟）最長30日 30千円/回
○移住準備のための住宅
 ・田舎暮らし住宅 3棟（新山）最長3年 25千円/月
 ・移住準備住宅 2棟（ますみヶ丘）最長2年 15千円/月
 ・" 2棟（山寺）最長2年 20千円/月
 ・移住準備仮住戸（高遠・長谷地域の市営住宅）6か月家賃半額
○入居要件の緩和・家賃軽減支援
 ・子育て住まいる（高遠・長谷地域の市営住宅）家賃2割軽減

○伊那地域空き家バンクホームページ 空き家バンク
 ・箕輪町、南箕輪村と合同による専用ホームページの運営
○空き家に関する相談
 ・集落支援員（1名）の配置による空き家バンク制度の利用促進
○登録・利用促進補助金
 ・取得、増改築等の経費 事業費の2/10以内（最大75万円）
 ・家財等の搬出の経費 最大15万円
 ・成約報奨金 10万円 ほか
○農地取得要件の緩和

伊那MRスクエア

伊那市は、地方創生推進交付金を活用した「地方創生アルカディア構想」戦略的シティーブローモーション事業の一環で、KDDI株式会社とともに「伊那 MR スクエア」を制作しました。

これは、地域資源のローカルブランディングと、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）、そしてMR（複合現実）の技術等を活用し、リアルとバーチャルを組み合わせ、移住定住に関する情報を集約したWEB上の仮想空間プラットフォームです。

ICTの急速な進化や社会情勢に応じた情報提供が必要となる中、コロナ禍においても生活様式が大きく変化しており、地方移住への関心の高まりや、移住定住希望者の情報収集の在り方なども変化してきています。

「伊那 MR スクエア」は、日ごろ移住定住相談窓口で、移住希望者等から問い合わせの多い内容を中心に情報を集約するとともに、テクノロジーをいかして移住希望者等に訴求力のあるみせ方としています。また、スマートフォンやパソコンなど端末に依存せず、いつでもどこでも手軽にアクセスできるため、欲しい時に必要な情報を得ることができます。さらに、利用者自ら「伊那 MR スクエア」の空間を動いて情報を得ているような体験をすることで、記憶に残りやすいものとしています。

「伊那 MR スクエア」を通じて、伊那市の認知度向上やファンの増加、さらには実際に伊那市を訪れていただくような関係人口から移住定住に繋げていくとともに、市民の皆さんには、地域の魅力の再発見や郷土愛の醸成に繋げていきます。



制作の背景

伊那市では移住定住に関する様々な取り組みを展開しており、日常の窓口相談や情報発信等のほか、定期的に関東方面や中京、関西方面での移住セミナーなどに参加してまいりました。また、コロナ禍により、セミナーなどが中止となるなか、伊那市では、単独でオンライン相談やオンラインセミナーを開催するなど積極的に取り組んできています。

今回、新たな情報発信や伊那の魅力体験していただくツールとして、時間や場所を問わずに伊那市の「暮らし」「学び」などの情報を提供できる新たなツールの制作を試みました。コロナ禍で全国的な移動制限などが行われていたなか、移住希望者等が直接伊那市を訪れたり、小学校の見学や田舎暮らしモデルハウスに宿泊したりする機会が減っていた現状もあったため、この「MRスクエア」制作の必要性を改めて感じています。

伊那 MR スクエアへのアクセス方法

下記、URL からアクセスすることができます。

<https://ina-mrsquare.jp/>

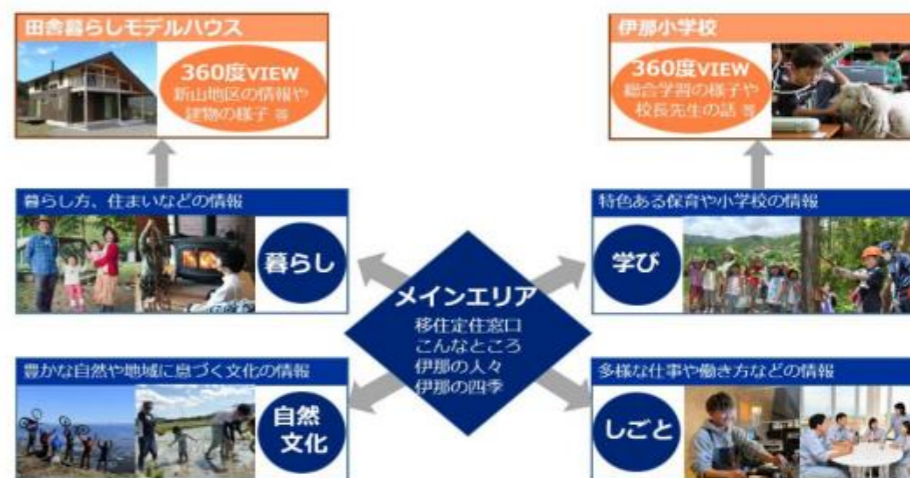
※伊那市公式ホームページや伊那市移住定住応援サイトなどからアクセスできます。今後、関係機関サイトにバナー掲載等を行うほか移住セミナーや移住イベントチラシ等にもQRコードを掲載するなど多方面からアクセスできるようにします。



「伊那 MR スクエア」

伊那 MR スクエアの内容

- ・2つのアルプスが見える伊那らしい景観上に設置
- ・メインエリアには相談窓口や先輩移住者の情報など移住定住に直結する内容を集約
- ・4つのサブエリアは「暮らし」「学び」「自然文化」「しごと」をテーマに、市保有の既存プロモーション映像や写真素材などをおさめている
- ・「田舎暮らしモデルハウス」と「伊那小学校」は、360度映像により現地に行った感覚で楽しめる
- ・「伊那小学校」は、小学校等の協力により、総合学習を中心としたリアルな学校生活の様子を写真や動画で紹介している
- ・情報にアクセスする際、MR技術等を活用して自ら空間を動いて情報を取得する体験を味わうことで、記憶に残りやすいものとし、新しい体験価値を届ける



地方創生アルカディア構想（令和元年度～令和3年度）

移住定住の促進や人口増加に向け、結婚・出産・子育て世代をターゲットとしたアメニティ定住プロジェクトとして、A I や L I N E の活用のほか、シェアリングエコノミー、生活適地への立地誘導、XR技術を活用した戦略的シティーブローモーションなどの各事業に取り組んでいる。

・戦略的シティーブローモーション

- 本年度事業費 9,955,000円（地方創生推進交付金 補助率 1/2）
- 受注事業者 KDDI株式会社 ○運用開始 令和4年5月10日

【本資料に関する問い合わせ】

企画部地域創造課人口増進係 志知貴文 CN・浦野真由美
電話：0265-78-4111 (2155) mail: jkz@inacity.jp

AIチャットボット 移住ライフデザイン



「AIチャットボット 移住ライフデザイン」 事業概要

2022年7月20日
長野県 伊那市

伊那市は、地方創生推進交付金を活用した「地方創生アルカディア構想 AIチャットボット 移住ライフデザイン」事業の一環で、「INA LIFE DESIGN RECOMMENDED」を沖電気工業株式会社と開発しました。

これは、移住希望者等の利用者が6つの質問に回答することで、AI対話エンジンを活用し、移住後の伊那での暮らしをイメージできるライフスタイル提案を導きだすものです。実際に移住した方の実績データや e-Stat などのオープンデータと、蓄積した利用者の回答履歴から AI が推論して、「暮らし」「住まい」「仕事」「学び」に関する利用者におすすめのライフプランを提案します。

ICTの急速な進化や社会情勢に応じた情報提供が必要となる中、コロナ禍においても生活様式が大きく変化しており、地方移住への関心の高まりや、移住定住希望者の情報収集の在り方なども変化してきています。「INA LIFE DESIGN RECOMMENDED」は、日ごろ移住定住相談窓口で、移住希望者等から問い合わせの多い内容を中心に情報を整理（先輩移住者やそのライフプランに必要な情報への誘導等）し、伊那での多様な暮らしを提案するとともに、スマートフォンやパソコンなど端末に依存せず、時間や場所を問わず手軽にその情報を得ることができます。

移住希望者等が移住後の生活に対する不安を少しでも解消して伊那での暮らしをイメージしていただくとともに、伊那市の認知度向上や暮らしの魅力を知ってもらうきっかけとなるような関係人口から、さらには実際に伊那市を訪れていただくような移住定住に繋げることを目的としています。



開発の背景

伊那市では移住定住に関する様々な取り組みを展開しており、日常の窓口相談や情報発信のほか、関東方面や中京、関西方面での移住相談会などに定期的に参加しています。また、コロナ禍によりリアル相談会などが全国的に中止となっていたなか、伊那市は、単独でのオンライン相談やセミナーを積極的に開催してきました。それらの結果、移住希望者等からの問い合わせは増加しており、その相談内容は多種多様となっています。

そこで、伊那市に興味を持ってくれた方に、**24時間365日稼働が可能となる相談窓口**のようなツールとして、移住定住に関する情報を集約して提供するサービスを構築しました。これにより、利用者はいつでもどこでも気軽に伊那市の情報を得ることができます。一方、**複雑な個別化した相談等に対しては、職員が移住定住希望者一人ひとりに寄り添い**、多岐にわたる相談業務への対応を強化して、さらなる行政サービスの向上に努めます。このように移住相談の増加と多様化してきている昨今の状況下において、伊那市の暮らしや魅力を丁寧にお届けするためにも「AIチャットボット 移住ライフデザイン INA LIFE DESIGN RECOMMENDED」の活躍シーンが期待されます。

AIチャットボット 移住ライフデザインへのアクセス方法

- ① 伊那市公式 LINE「長野県伊那市」
<https://lin.ee/du5jMHd>

身近な SNS から気軽にアクセス。



- ② 下記 URL からアクセス

<https://www.arcadia.inacity.jp/FrontAP/Ladadie.html>

※伊那市公式ホームページや移住定住応援サイトなどからアクセス。

移住や観光等の関係機関サイトにもバナー掲載等を行います。

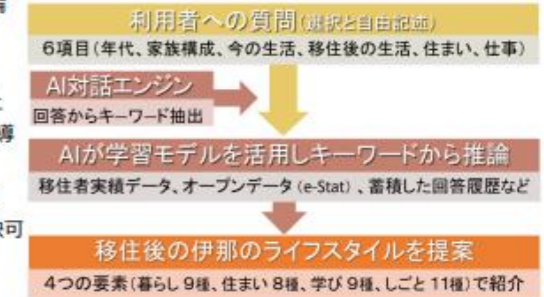
そのほか移住情報チラシや移住相談会の会場等に QR コードを掲載して、多方面からアクセスできるようにします。



INA LIFE DESIGN
RECOMMENDED

AIチャットボット 移住ライフデザインの特徴

- ・6つの質問に利用者が回答 → 自然な会話による「人間的」な対応で温かみのある対話を実現
自由記述項目の自由文からキーワードを抽出して解析を行う
- ・移住者実績データやオープンデータ（e-Stat：政府統計の総合窓口）と、蓄積した回答履歴をもとにつくられた学習データを活用して AI が推論
- ・移住希望者の関心が高い4つの要素で利用者におすすめのライフスタイルを提供
「暮らし・住まい・学び・しごと」で7000通り以上既存の移住サイトや先輩移住者の声などへ誘導
- ・前例や感覚に頼る属人的な提案ではなく、膨大なデータ量や統計から導きだされた提案
- ・移住者実績データや e-Stat は最新化して反映可
- ・蓄積した回答履歴をフィードバックとし、さらに学習して精度を高めて成長していく



地方創生アルカディア構想（令和元年度～令和3年度）

移住定住の促進や人口増加に向け、結婚・出産・子育て世代をターゲットとしたアメニティ定住プロジェクトとして、AIやLINEの活用のほか、シェアリングエコノミー、生活適地への立地誘導、XR技術を活用した戦略的シティープロモーションなどの各事業に取り組みました。

- ・沖電気工業株式会社との取り組み、連携協力に関する協定

伊那市と沖電気工業株式会社は、令和2年3月に Society5.0 に向けた新産業技術に係る連携協力に関する協定を締結しています。本事業は、地方創生アルカディア構想事業の一環で沖電気とともに令和元年度から取り組み、子育て世代等をターゲットとして移住定住促進のためのプラットフォーム構築をすすめてきました。令和元年度に移住希望者向け相談窓口、令和2年度に市民窓口サービスとして、それぞれ利用者の問い合わせに自動回答する実証を行い、このたび令和3年度の当事業の構築と実証を経て、全サービスの運用を開始します。

- ・AIチャットボット 移住ライフデザイン 「INA LIFE DESIGN RECOMMENDED」

○令和3年度事業費 12,500,000円

（内訳：地方創生推進交付金 50%、特別交付税 45%、伊那市負担 5%）

○受注事業者 沖電気工業株式会社 ○運用開始 令和4年7月20日

【本資料に関する問い合わせ】 企画部 地域創造課 人口増進係 志知貴文 CN・浦野真由美
電話：0265-78-4111（内線2155） mail：jkz@inacity.jp

シェアリング エコノミーサービス 「こころむすび」



伊那市は、地方創生推進交付金を活用した「地方創生アルカディア構想事業シェアリングエコノミー・イノベーション」事業の一環で、シェアリングエコノミーサービス「こころむすび」を株式会社アドヴァンスト・インフォーメーション・デザイン（以下、AID）と開発しました。

これは、ICTを活用したクラウド上の地域コミュニティとして、限りある地域資源の有効活用や CO2 削減・環境活動などを推進し、豊かな自然や環境を守りながらここに暮らし続ける人をむすぶ、シェアリングエコノミーサービスです。ICTによる地域まるごとチーム化を目的に、子育て世代や高齢者、移住定住希望者等がサステナブルで豊かな暮らしを目指し、次の2つが共存するサービスです。

1. ニーズとシーズのマッチングを通じた地域互助を促進する市民力による持続可能なまちづくり
2. 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた、地域住民等の環境活動の意識醸成や見える化

これらを実現するために「こころむすび」では主に3つの機能（たすけあい活動、コミュニティ活動、エコ活動）があり、利用者同士が直接やりとりすることで地域住民の困りごとを解決したり、コミュニティ内で情報交換したり、環境活動の啓発や可視化を行います。また、利用者がこれらの活動を行った際には「こころむすびポイント」が付与され、ポイント数に応じて環境に配慮した商品などと交換できる仕組みです。

ICTの急速な進化やコロナ禍において生活様式が大きく変わり、地域住民の困りごとや子どもをとりまく環境も変化してきています。また、食糧や水、エネルギーなどが自活できるまちであることの重要性が改めて見直され、地域や自然への想いも醸成されてきていると思われます。

こうしたなか、先端技術を活用し、市民一人ひとりの労力や資産などをいかした新たな支え合いや、地域外とのつながりを生み出すコミュニティを形成したり、子育て世代等がここに暮らし続けたいくなるまちの魅力発信やプラットフォームとして「こころむすび」を開発しました。

「子どものために何かしたい」「だれかに手伝ってほしい」「身近な環境を守りたい」——。そんな想いが詰め込まれ、届けあう場所です。人と人、人と自然とこころをむすぶやさしい場である「こころむすび」が、伊那市がすすめるまちづくりや多様で豊かな暮らしを維持しながら地域の成長につながる地域コミュニティの再構築を図ることを目指します。自治体としては非常に珍しい取り組みであり、今後、地域や企業等のみなさんにご協力いただきながら一緒に育てていけたらと思います。

【参考】全国的な流れと同様に伊那市でも人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化につなげるため、移住定住に向けた様々な施策に取り組んでいます。また、「DXしあわせのまち宣言」を行い、新産業技術を活用して地域課題の解決や暮らしの豊かさの向上を目指しています。さらに、食糧、水、エネルギーが循環して地産地消する素地があり「伊那から減らそうCO2!!」のもと、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて市民や産業界が一体となり推進しているほか、伊那市は「2021年SDGs未来都市」に選ばれており、SDGsの達成に向けた取り組みも注目されています。



「こころむすび」へのアクセス方法

① 伊那市公式 LINE「長野県伊那市」
<https://lin.ee/du5jMHd>

② URLからアクセス
<https://ina-heartful-sharing.jp/>

※伊那市公式ホームページや社協等の関係機関、などからアクセス。今後、社協等の関係機関へのバナー掲載や協力企業等のHPのほか、エコ活動実施場所等にQRコードを掲載して多方面からアクセスできるようにします。

③ Google Play、App Store で「こころむすび」で検索してダウンロード



「こころむすび」の特徴

- ・会員登録や月額利用料が無料
- ・スマホやPCなど端末の種類によらず、いつでも気軽にアクセス可能
- ・環境活動の見える化によるユーザー体験を重視
- ・シェアエコとコミュニティ活動、環境活動が共存することで、利用者の各活動への興味をひろげるとともに、「こころむすび」の一体感を醸成

「こころむすび」でできること ※（ ）内は活動実施によるこころむすびポイント獲得数

- (1) 主な機能
 - ① たすけあい活動...利用者同士でモノやスキルなどを譲り合う (30pt)
 - ② コミュニティ活動...誰でも立ち上げることができ、仲間同士やコミュニティ内で、自由に情報交換やイベント告知・PRなどができる
 - ③ エコ活動...日々のエコチェックやCO2削減の見える化ができる
(毎日のエコチェック: 1pt、電気量等の登録: 10~20pt、QRコード読込: 適宜)
- (2) 商品例 (50pt、300ptなどポイント数に応じて)
 - ・エコバック ・麦ストロー ・地域材のワークショップ参加券
 - ・経木 ・ミツロウエコラップ ・エコを紹介する番組出演券 ・果物収穫体験券
 - ・SDGs 貢献に関する商品 ・イーナちゃんグッズ など
- (3) 参加者全体の取り組みによるインセンティブ
 - ・CO2削減量の総和をアカマツ1本の吸収量に換算したものにあわせて植樹
 - ・こころむすびポイントが定量に達した際に、カレー大作戦の食材などに提供

ご協力企業 (8月9日時点)

- 事業趣旨に賛同いただいた企業・団体等が「こころむすび」への参画や商品提供をいただいています。
- ・株式会社ニシザワ ・KOA株式会社 ・丸紅伊那みらいでんき ・伊那ケーブルテレビジョン
 - ・伊那市モドリナ委員会 ・みはらしファーム ・つなぐ里山 ・ワイルドツリー ・盛木材
 - ・伊那市有線放送 ・アルプス中央信用金庫 ・NPO法人「森の座」
- ※そのほか、ご協力をご検討いただいている企業が複数あります。今後も随時お受けします。

地方創生アルカディア構想 (令和元年度~令和3年度)

移住定住促進や人口増加に向け、子育て世代等を対象にアメニティ定住プロジェクトとしてAIやLINE活用のほか生活適地への立地誘導、XR技術を活用した戦略的シティープロモーションなど各事業に取り組む。

シェアリングエコノミーサービス「こころむすび」(運用開始: 令和4年8月9日)

- 令和3年度事業費 32,256,400円
(内訳: 地方創生推進交付金 50%、特別交付税 45%、伊那市負担 5%)
- 受注事業者 株式会社 アドヴァンスト・インフォーメーション・デザイン

【本資料に関する問い合わせ】企画部 地域創造課 人口増進係 志知貴文 CN・浦野真由美
電話: 0265-78-4111 (内線 2155) mail: jkz@inacity.jp